資料４

【景観設計①　これまでの経緯】

１）塩浜１丁目における護岸バリエーションについて

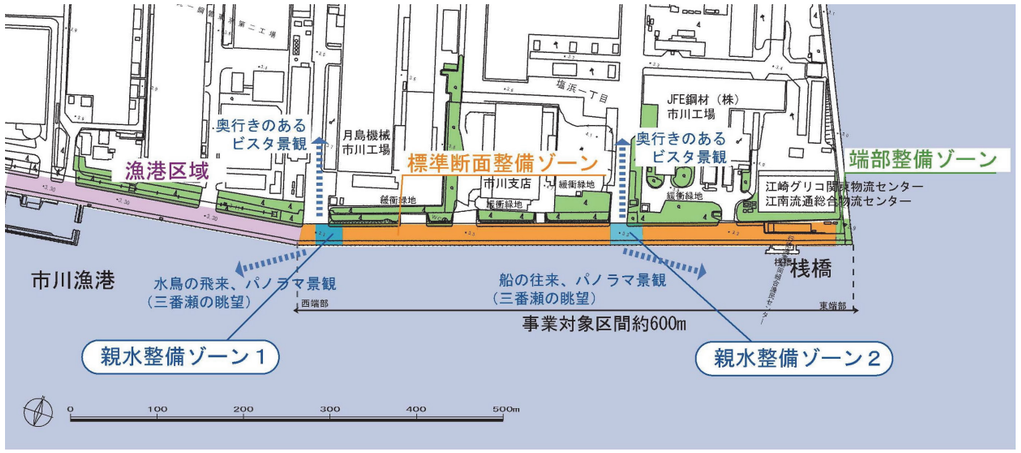
委員のご意見・市川市要望
安全性の確保前提
市民要望の高い親水性に配慮

護岸基本断面の基本的考え方
立入抑止が基本

利用目標
護岸から三番瀬を眺望

展望テラスの整備

《設置位置》



《検討フロー》

●展望テラスの構造
擁壁構造、転落防止高さ 1.10m の確保

●展望テラスの高さ
展望テラス床面 A.P.+5.65 で設定

●斜路の設置
片側に斜路を設置

●完成護岸はそのまま
基盤となる完成護岸の形状は変えない

●標準断面を活用した構造
標準区間の断面を踏襲する

展望テラスケースの設定
・形　状　：長方形状（隅角部ラウンド）
・広　さ　：10～30 名程度の利用空間
・奥行き（幅）　：張り出し幅 D=3.5m

●親水整備ゾーンは
事業対象区間に２箇所設置

《検討イメージ》

⑤経済性への配慮
地盤改良や長尺の支持杭が不要
標準整備区間（捨石マウンド＋円弧すべり抑止杭）断面の有効活用

④航路の保全（展望テラスの整備により、護岸の前だし等、完成護岸には手を入れることがない構造とする）

①安全性の確保（擁壁構造、1.10m の確保）

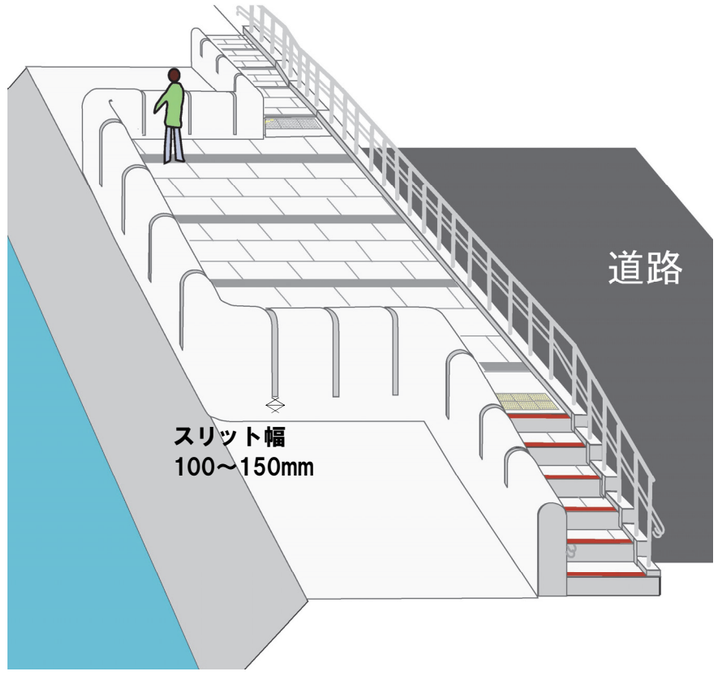
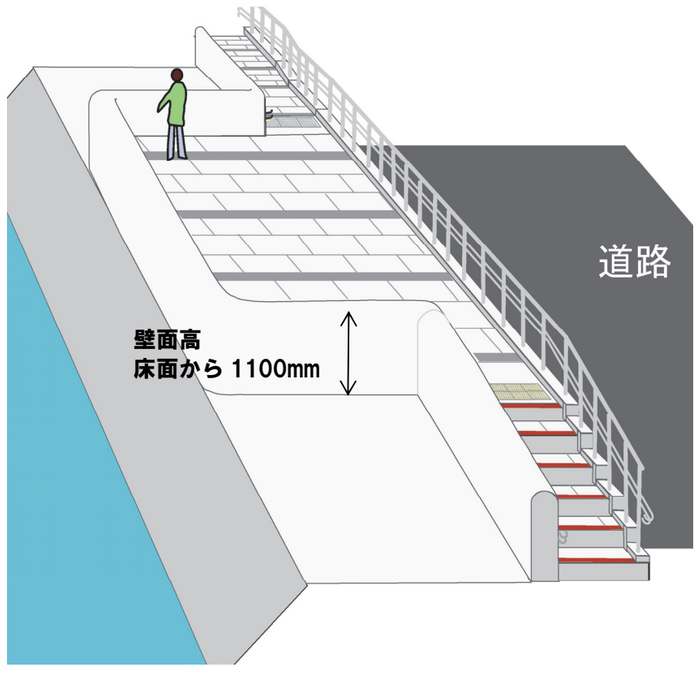
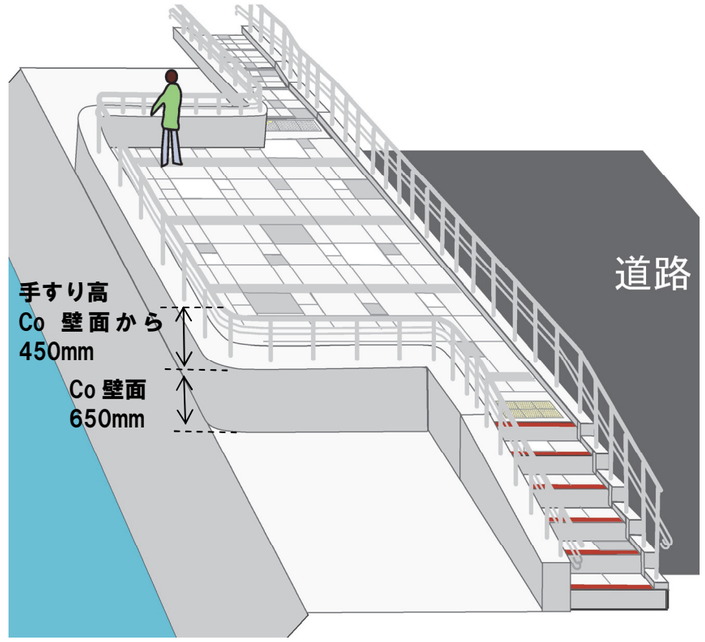
②防護性能の確保（床面 A.P.+5.65m で設定）

③バリアフリーの確保（斜路設置）

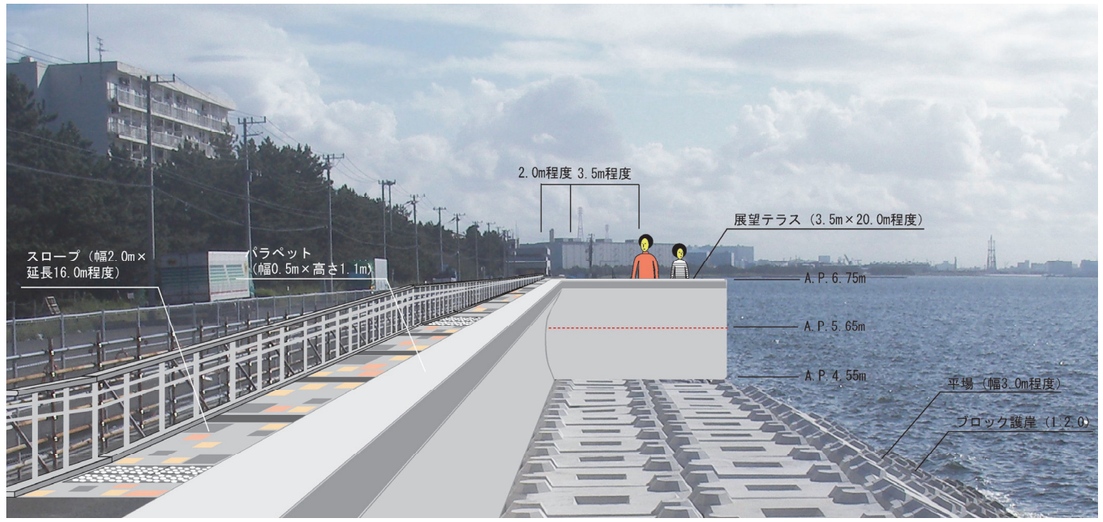
２）前回までの主な意見

- 小学生の目の高さは９０cm 程度である。子どもの視線を確保するには、手すりでもいいと思う。
- テラスのイメージ図を、次回委員会で３案程度出してご協議いただきたい。
- 安全性を確保した上であるが、手すりにすべきである。床面はコンクリート打ち放しか景観に配慮して石張り等の工夫が必要か。
- 陸側のフェンスも含めた手すりの素材、波浪の打上げ、排水処理、子どもの利用、スロープ・階段等の諸元、座るための施設等も検討課題。
- 釣り客の利用者が多く、支障をきたす可能性があるため対策を検討する必要がある。
- 手すりに足をかけて乗り越えたりすることが予想されるので、安全対策を最重視し、スリットがいい。手すり構造は、子どもたちが登ってしまう危険性がある。
- 壁面のスリット構造や床面のインターロックは、今後詳細につめていく。

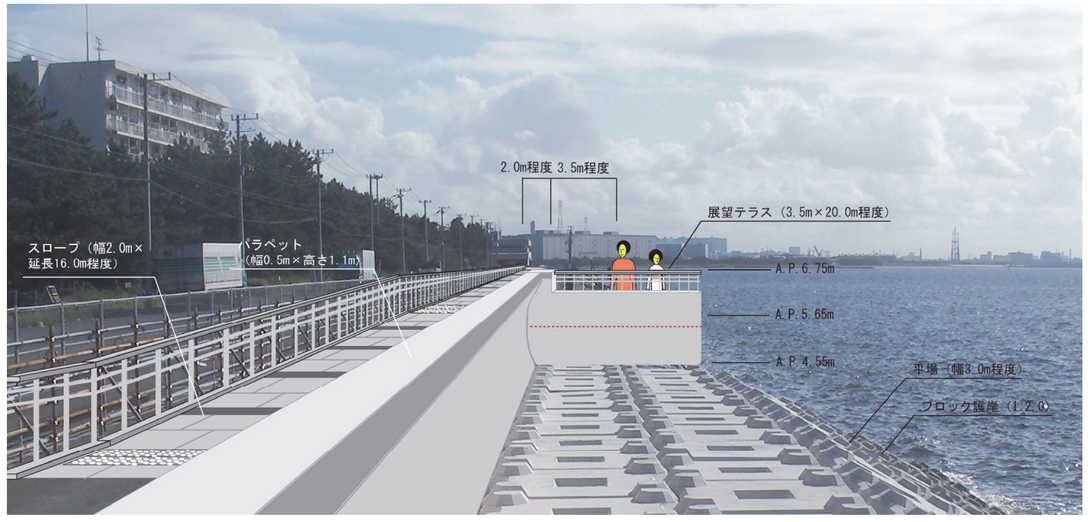
【景観設計②　展望テラス景観設計（３案）】

	A 案（壁面スリット案）	B 案（壁面スタンダード案）	C 案（壁面手すり案）
鳥瞰イメージ			
メリット	・　壁面の縦スリットや床面のストライプ（縞模様）を配置することで、展望テラスの景観性にリズム感を与える ・壁面の縦スリットにより、堤内道路や床面（踊り場）からの奥行きのある印象を演出する	・床面のストライプ（縞模様）を配置することで、展望テラスの景観性にリズム感を与える ・ステンレス性の手すりは、景観性や維持管理面に優れる	・床面（踊り場）からの最大限の眺望（パノラマビュー）を確保できる ・子どもや車椅子利用者等の低い視点を確保する
デメリット	・スリットなしの壁面より、施工費が割高になる	・　壁面構造が単調であり、子どもや車椅子利用者等が利用しづらい	・壁面手すりから、子どもが乗り上がる危険がある ・コンクリート壁面部分が A,B 案より低いため、越波等の侵入が懸念
評価	**◎（推奨案）**	○	△

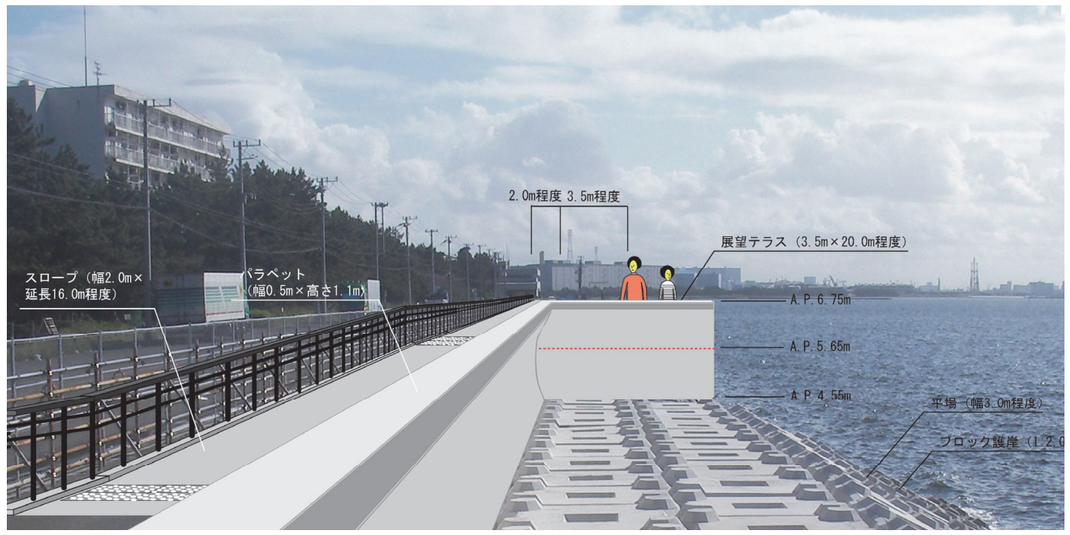
【景観設計③　フォトモンタージュ】



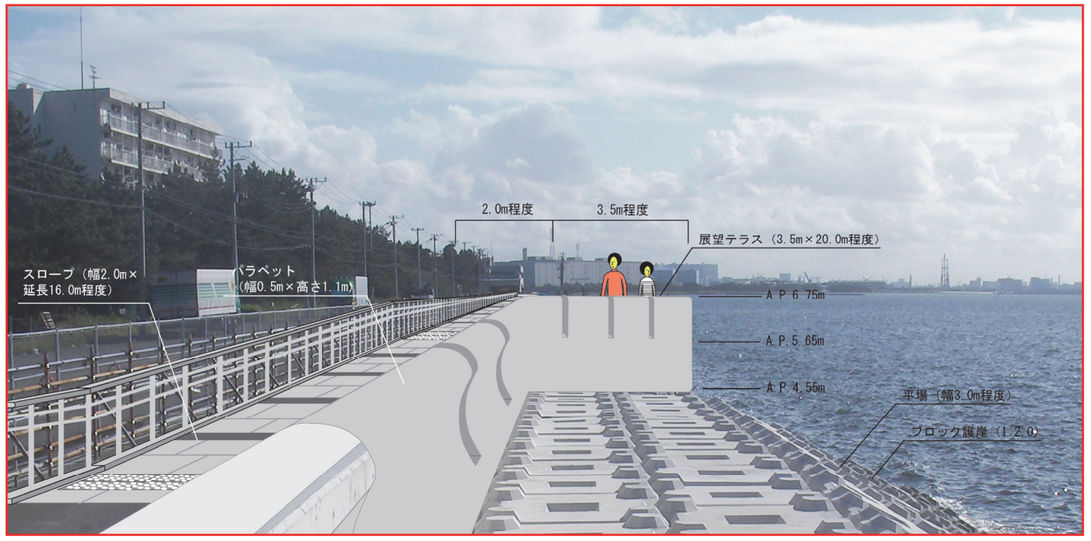
○　壁面（コンクリート壁）
○　床面（舗装用ブロック２）
○　手すり（ステンレス）



○　壁面（コンクリート壁＋手すり構造）
○　床面（舗装用ブロック１）



○　壁面（コンクリート壁）
○　床面（コンクリート）
○　手すり（ポリエステル樹脂塗装）



【推奨案】
○壁面（コンクリート壁＋スリット構造）
○床面（舗装用ブロック１）
○手すり（ステンレス）

【景観設計④　床面】

1）設置条件

- 千葉県福祉のまちづくり条例は、以下の通りである。

（1）　傾斜路は、その踊場及び当該傾斜路に接する園路の色と明度の差の大きい色とすること等によりこれらと識別しやすいものとすること。

（2）　傾斜路の上端に近接する園路及び踊場の部分には、注意喚起用床材を敷設すること。

- スロープの起終点においても長さ 1.5m以上の水平部分を設けることとする。

2）表面仕上げ

- スロープの存在を識別しやすく、かつ、景観に調和するよう明度・彩度を下げることとする。
- 舗装表面の着色仕上材は、耐久性やランニングコスト、滑り抵抗等を考慮した素材を用いることとする。

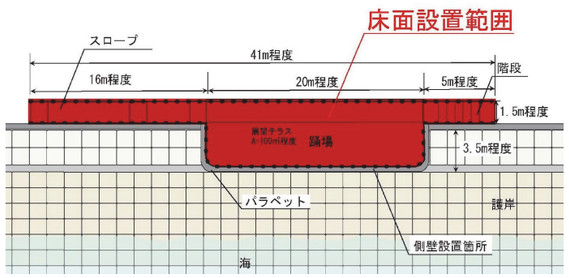


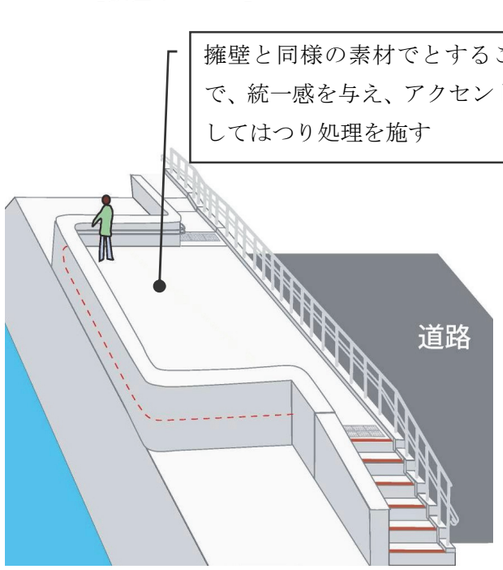
図. 床面設置範囲

床面は、景観性に配慮し、階段、スロープ、踊り場等を同様の素材を用いて統一感を与える

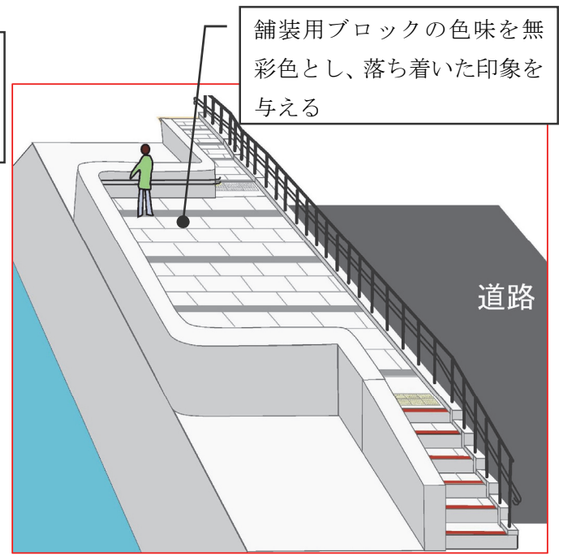


（A 案）八景島（神奈川県横浜市）

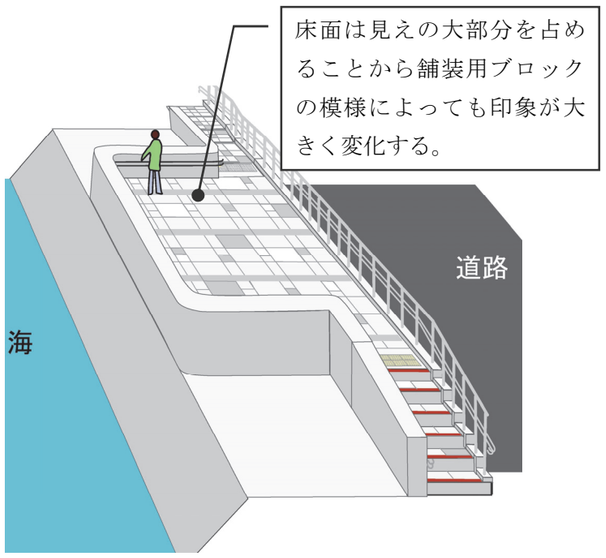
【設置イメージ】



（A 案）コンクリート



【推奨案】（B 案）舗装用ブロック（１）



（C 案）舗装用ブロック（２）



【推奨案】（B 案）東京ミッドタウン（東京都港区）



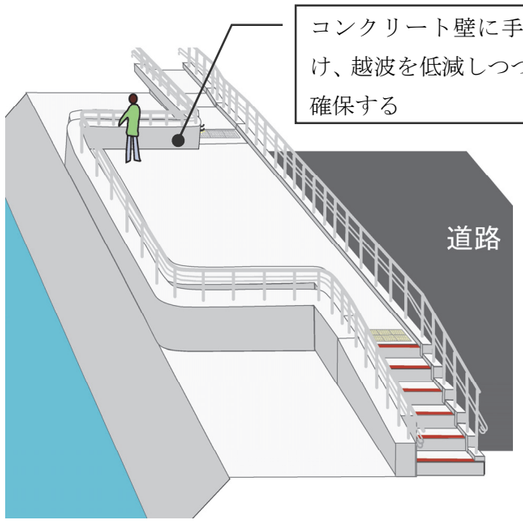
（C 案）スタンレープロムナード（香港）

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路

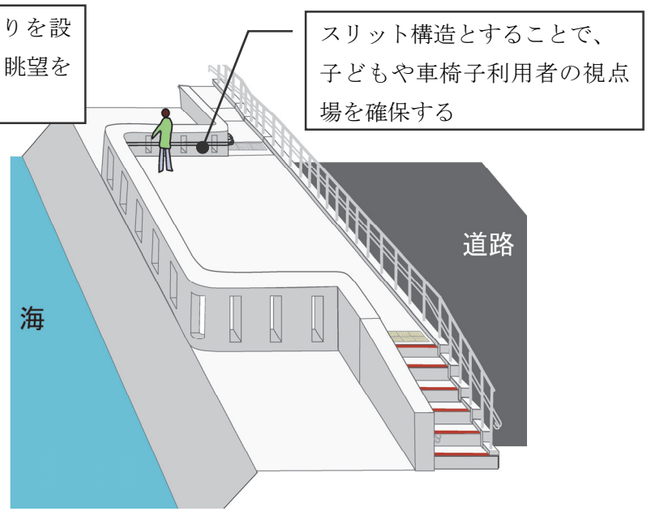
（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編

【景観設計⑤　壁面】

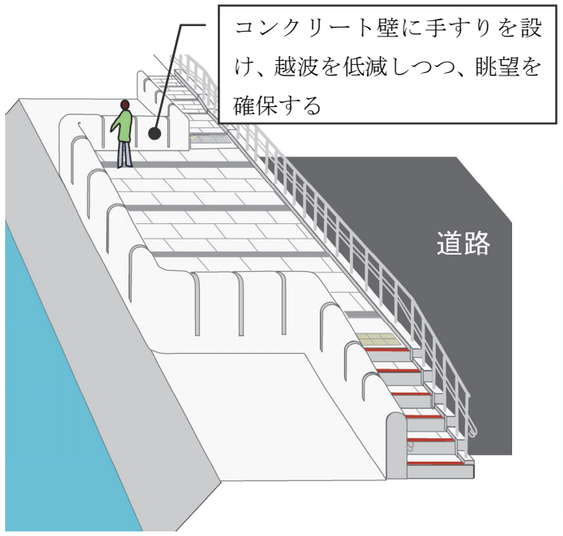
- 展望テラス形状は、海により近づける視点場（ビューポイント）を、配置した矩形形状とし、高齢者や車椅子利用者に配慮し、隅角部をラウンドさせることで、擁壁付近での滑らかな動線を確保する。
- 護岸改修により、沿岸の擁壁高が現況より 1m 程度高くなることから、三番瀬の眺望が見渡せる視点場（ビューポイント）は、展望テラスに限定される。
- このため、可能な限り眺望性に配慮し、越波性能等や子どもの転落防止等の安全性が確保される場合は、擁壁は眺望性に優れる構造が望ましい。



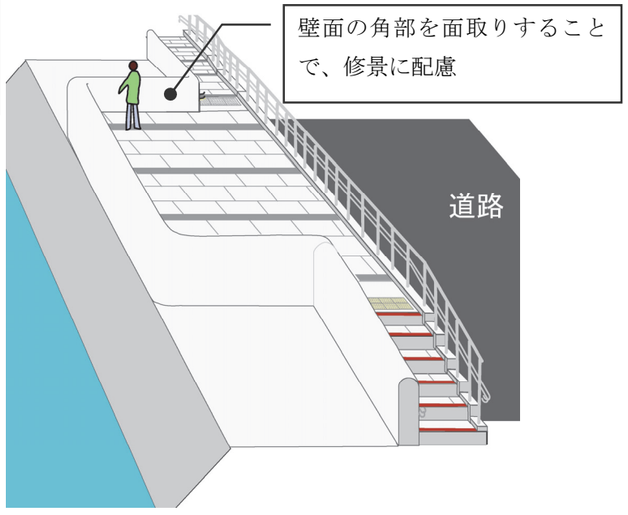
（A 案）コンクリート＋手すり



（B 案）スリット構造(1)



【推奨案】（C 案）スリット構造(2)



（D 案）コンクリート

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路

（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編



（A 案）スタンレープロムナード（香港）



（参考）川の駅八軒家（大阪府大阪市）



（参考）東京スカイツリー（東京都墨田区）

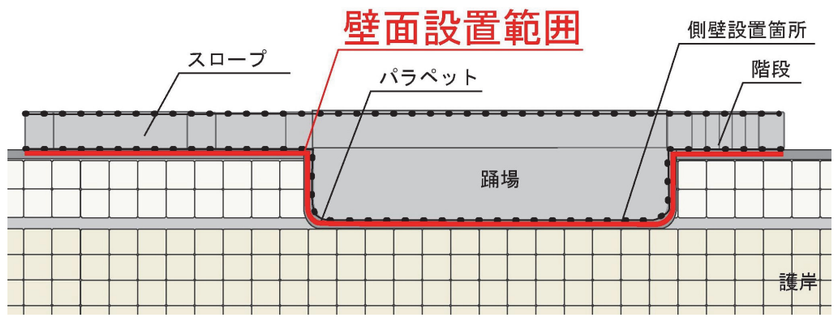


図　壁面設置範囲

【景観設計⑥　スロープ】

1）縦断勾配

- 千葉県福祉のまちづくり条例では、「縦断こう配は、十二分の一を超えないこと」としている。
- 各基準では、スロープ勾配は、４～８％で設定されているが、展望テラスに接続するスロープは、ごく限られた区間であるため、I=1/12（約８％）で設定する。
- スロープの高低差が 0.75m を超える場合は、高低差 0.75m 以内ごとに踏幅 1.5m 以上の踊場を設けることとする。

2）横断勾配

- スロープは縦断勾配によって雨水を排水することが可能であるため、横断勾配は設けずに水平とする。

3）幅員

- 千葉県福祉のまちづくり条例では、「幅員は、一・二メートル以上とすること」としている。
- 展望テラスに接続するスロープは、設置区間が非常に短く、車椅子利用者同士ですれ違うことは、想定しづらい。また、道路側への張り出し等を考慮した場合、既存の計画幅員を踏襲し、1.5m程度が望ましい。

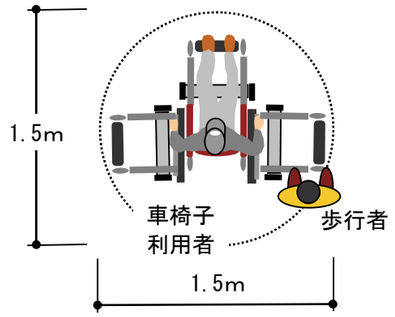


図　車いす使用者の転回寸法
（車いす使用者が転回できる寸法）

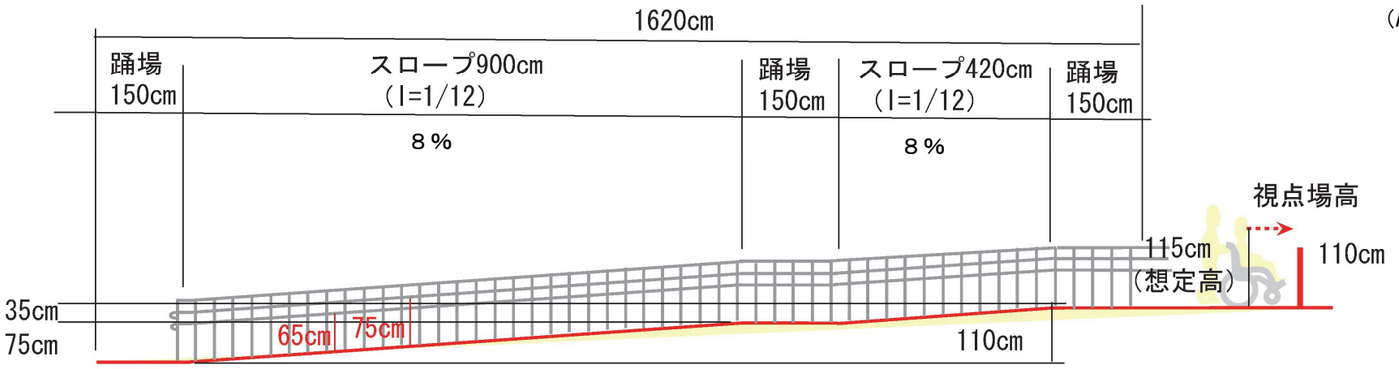


図　スロープ寸法

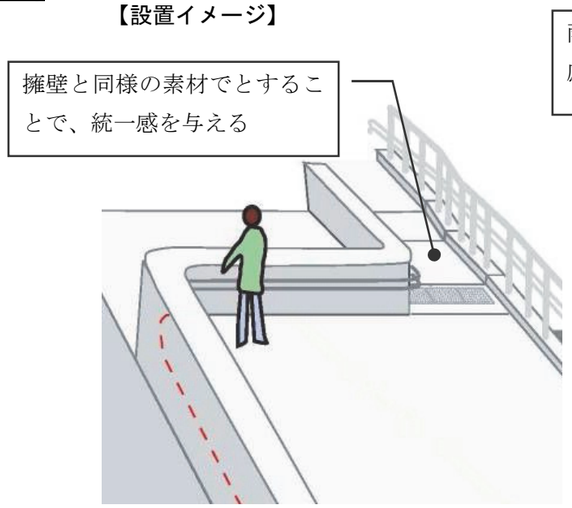


（A 案）江戸川中之島周辺スロープ

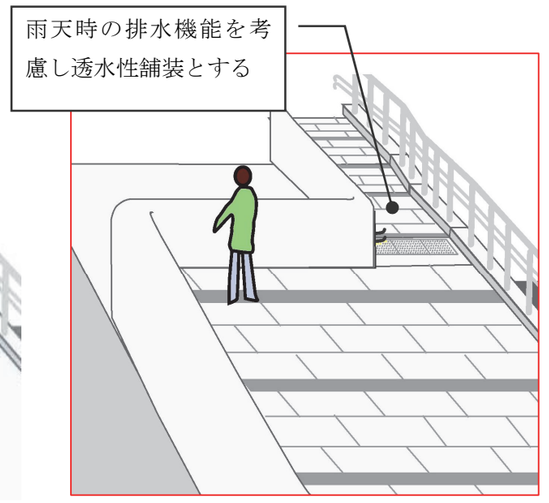


【推奨案】（B 案）臨港パーク（神奈川県横浜市）

【設置イメージ】



（A 案）コンクリート



【推奨案】（B 案）舗装用ブロック

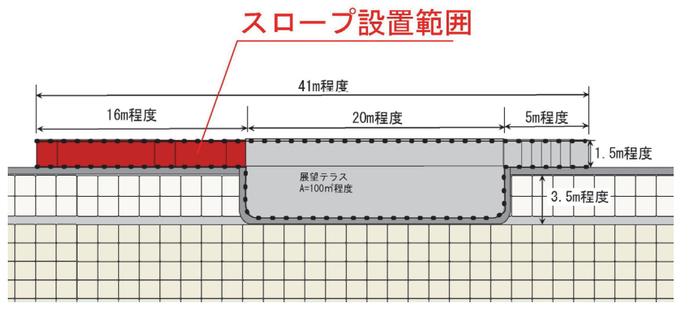


図　スロープ設置範囲

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路

（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編

【景観設計⑦　階段】

１）階段の構造

- バリアフリー関連マニュアル等において、最も緩やかな勾配を設定している東京都の整備基準を採用し、蹴上げ 15cm 以下、踏面 35cm 以上の寸法で一定とする。

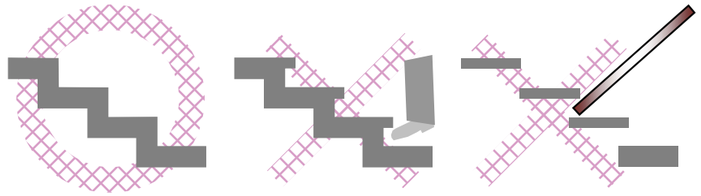
２）幅員

- 階段幅員は、スロープの幅員との諸元設定根拠を同じものとするため、既存の計画幅員を踏襲し、1.5m とする。

３）表面と縁端の仕上げ

- 段の縁端（段鼻部）については、視覚障がい者に限らず、天候や日の射し方によっては認識しにくい場合があるため、路面の端部とその周囲の部分との色の明度差が大きいこと等により、容易に識別できるものとする。

  具体的には、階段の縁端は全長にわたって、滑り止め効果のある塗料を幅 5cm 程度塗布することとすることが考えられる。



適正な縁端構造	段鼻は足先が引っかかりやすいため、飛び出さないようにする。	杖が挟まったり、足先がひっかかりやすいため、蹴込み板を設ける。

図　段の縁端の構造

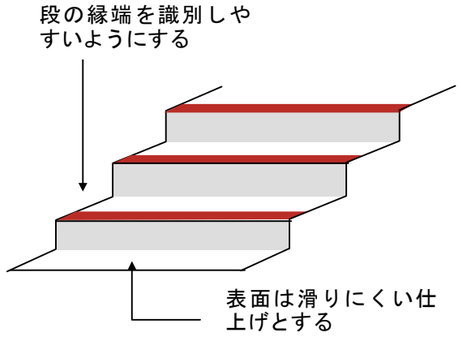


図　階段と段の縁端の仕上げ



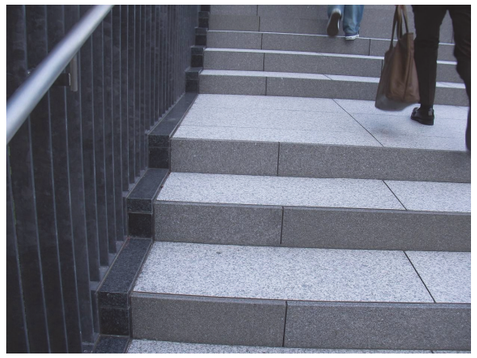
整備基準に適合した階段



【推奨案】（A 案）江戸川宝珠花橋周辺階段



（B 案）江戸川矢切の渡し周辺階段



（C 案）東京スカイツリー（東京都墨田区）

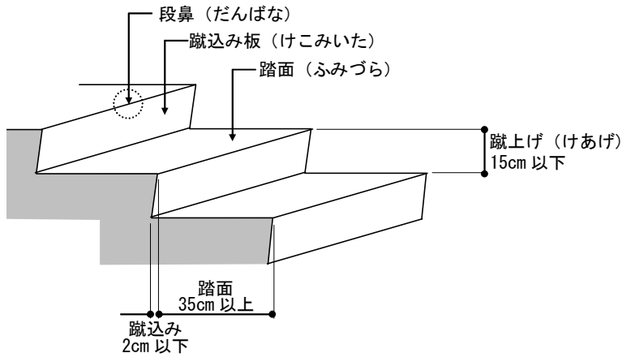


図　階段各部の名称と整備基準

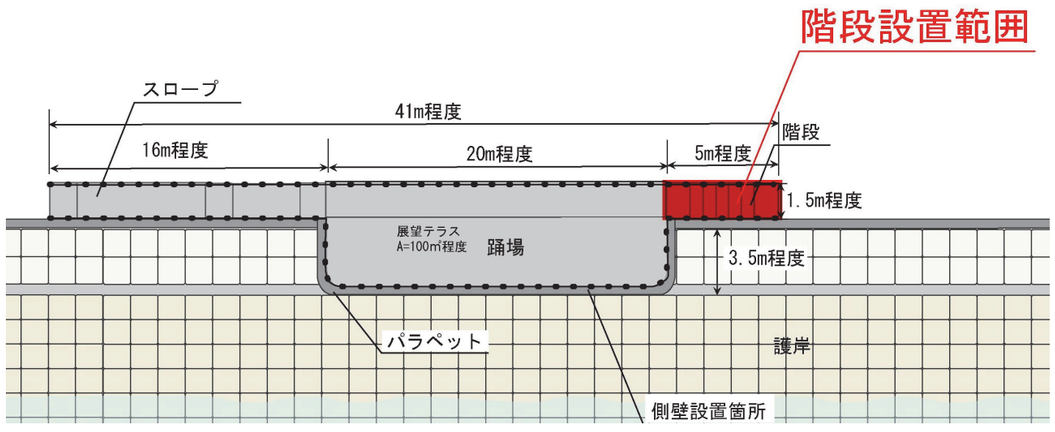


図　階段設置範囲

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路

（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編

【景観設計⑧　手すり】

- 手すりの始終端部の水平方向への延長寸法は、30cm 以上とし、隣接する動線に支障がない場合は 60cm 程度とする。
- 手すりの始終端部の処理は、下方へ滑らかに屈曲させるなど、衣服の引っかかりを防止するとともに、その箇所が始終端部であることが認識できるようにする。
- 手すり基礎については、プレート式を基本とし、固定するナットなどについては盗難が困難なものを使用するのが望ましい。



（A 案）江戸川（マニュアル資料（※）より掲載）



（B 案）メーカー提供資料より掲載

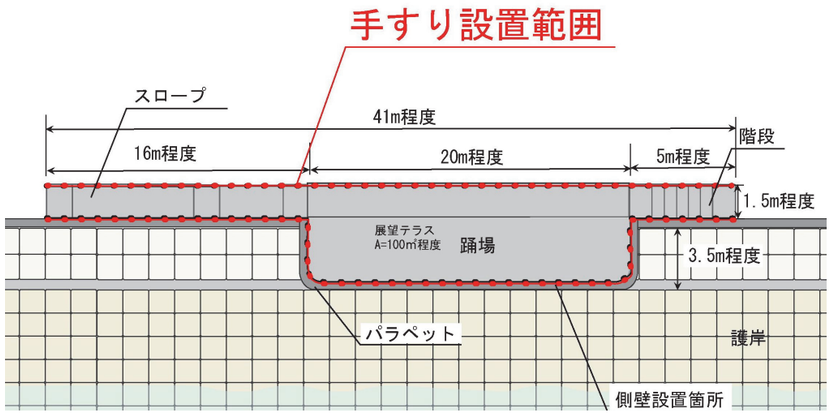


図. 手すり設置範囲

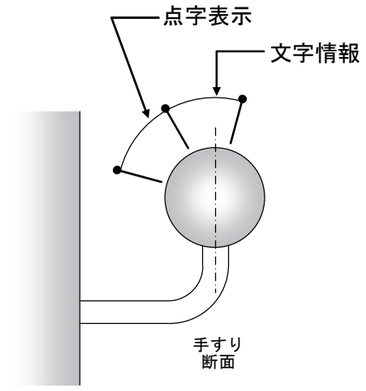


図　手すりの点字及び文字の表示位置

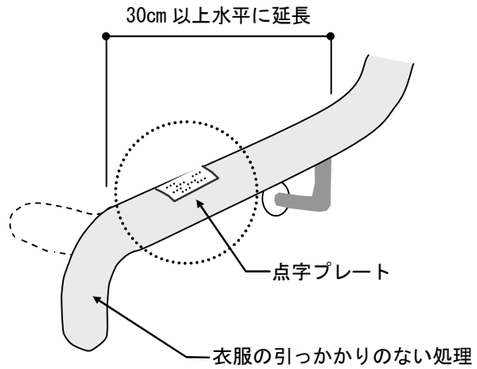
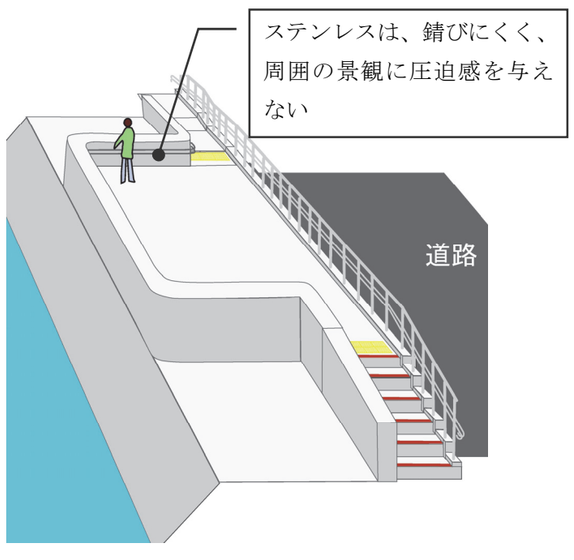
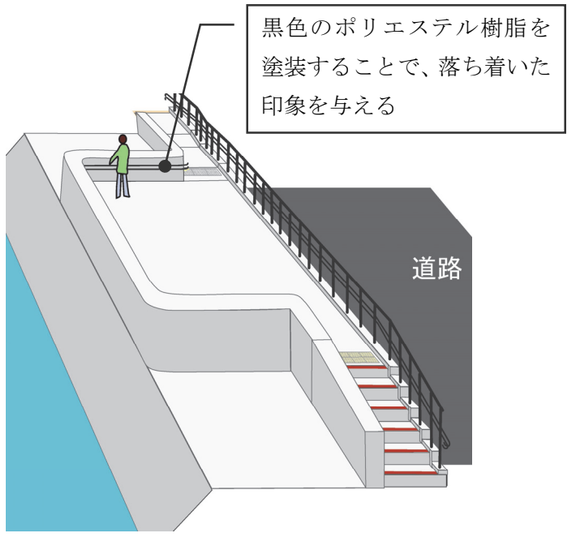


図　手すりの始終端部処理



（A 案）ステンレス



（B 案）ポリエステル樹脂塗装

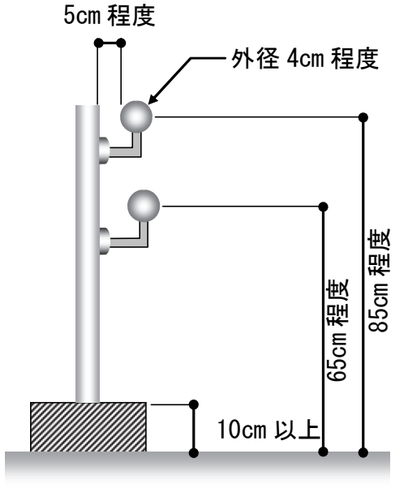


図　側壁の高さ

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路

（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編

【景観設計⑨　排水設備、側壁】

1）排水設備

- 展望テラスの排水設備は、護岸擁壁に排水溝を設置しない構造であることから、壁面に沿って溝を設置し、壁面に水抜き穴を各所に設置する。
- 溝および水抜き穴は、車椅子使用者や杖使用者等の通行に支障がないよう、車椅子のキャスターや杖等が落ち込まない構造とする。
- 壁面に沿って設置する溝は、勾配を設けて水抜き穴より排水可能な構造とする。

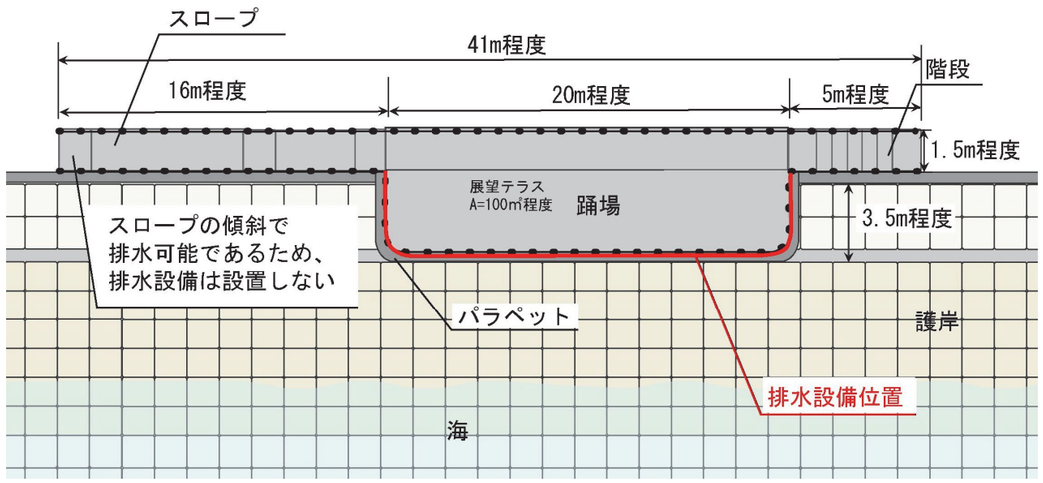


図　排水設備設置範囲

2）側壁

- 車椅子のキャスター等の脱輪を防止するとともに、杖使用者の危険の認知と杖のひっかかりを防止するため、スロープの両側に側壁を設置する。

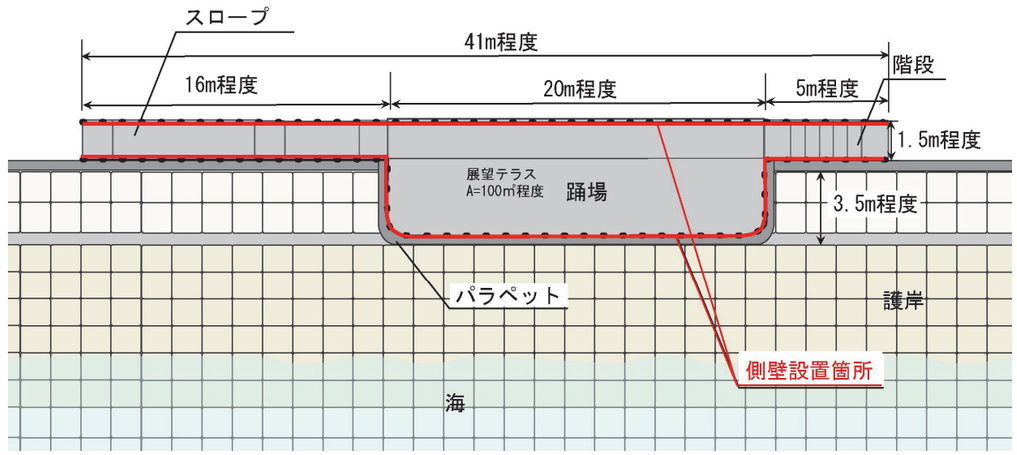


図　側壁設置範囲

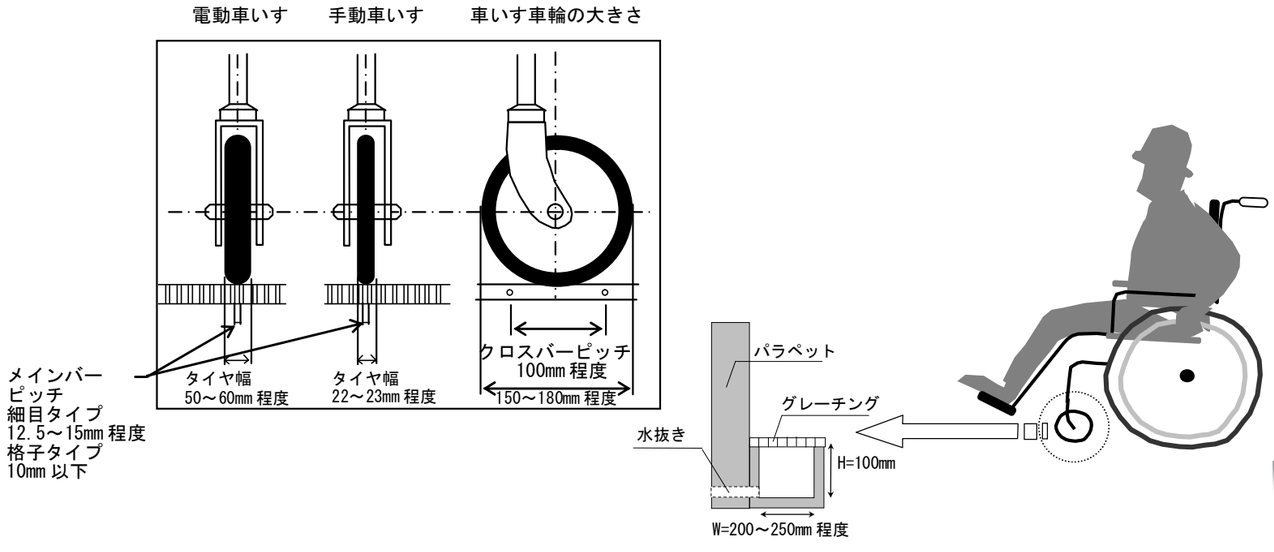


図　車のキャスターと安全な溝蓋の構造

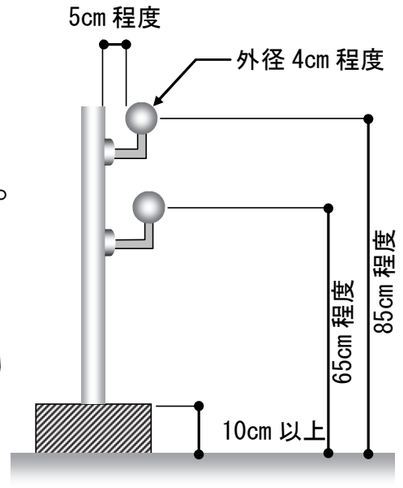
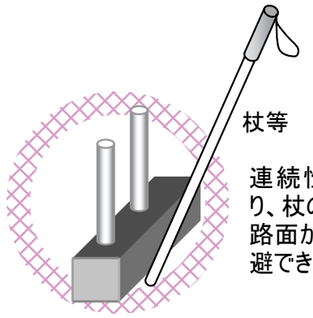
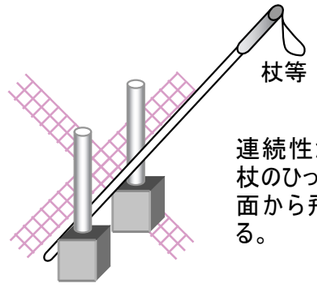


図　側壁の高さ



連続性が確保されることにより、杖のひっかかりや、車椅子が路面から飛び出す危険性を回避できる。



連続性が確保されないため、杖のひっかかりや、車椅子が路面から飛び出す危険性がある。

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路

（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編

【景観設計⑩　点字ブロック、案内表示板】

1）点字ブロック

- スロープと展望テラス広場等との接続箇所において、視覚障がい者に対して注意を喚起するため、点字ブロック等を敷設する。
- 今後整備するスロープについては景観に配慮した色彩としていくことから、黄色以外の色としながらも、対比効果が十分に発揮できる点字ブロック等を敷設する。
- スロープの色彩については明度・彩度の低い色とし、近接する道路表層材は明度・彩度の低いアスファルトであることから、彩度はスロープなどと同程度としながら、明度を高くすることによって対比効果が発揮できるようにする。

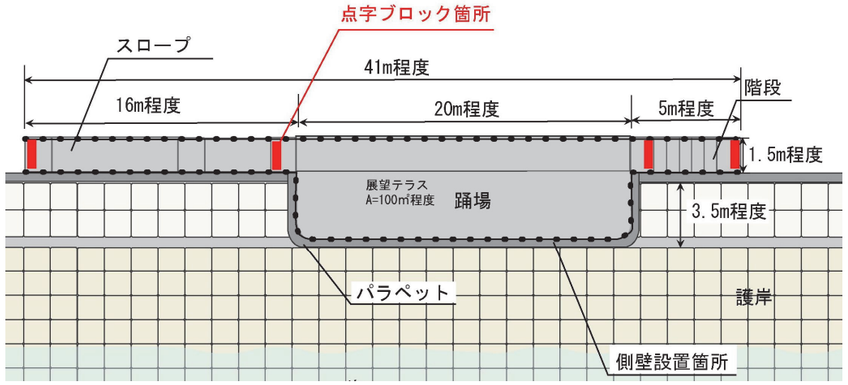


図　点字ブロック設置箇所

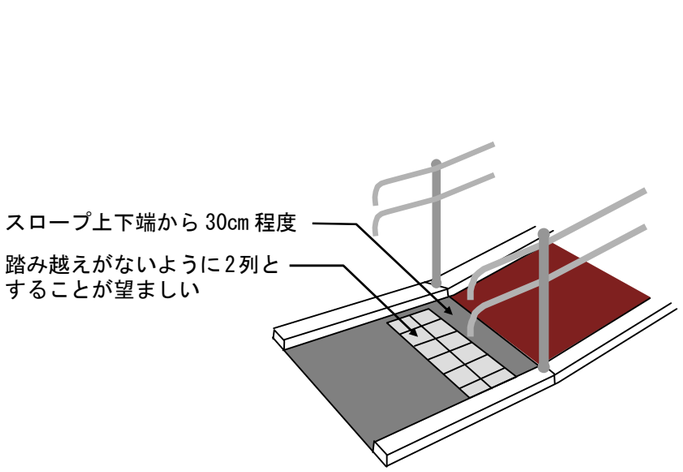


図　視覚障害者誘導用ブロックの配置

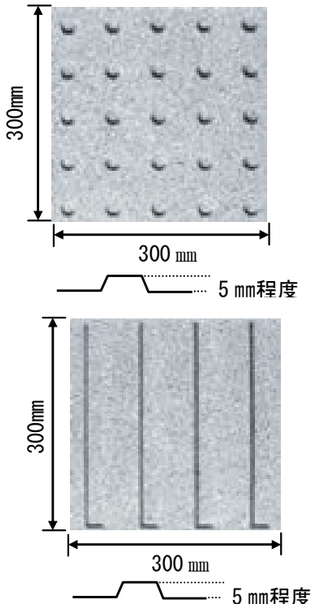


図　視覚障害者誘導用ブロックの JIS 規格

2）案内表示板

- 誰もが気軽に利用するための情報施設として、主要な利用箇所等に的確な情報提供ができるサイン（案内板）を設けることが好ましい。
- サインは、使用対象者を想定し、必要な情報に限定してわかりやすく表現する。
- 展望テラスでは、多くの釣り客利用が想定されることから、展望利用者等と節度ある利用を促す案内板を設置する必要がある。

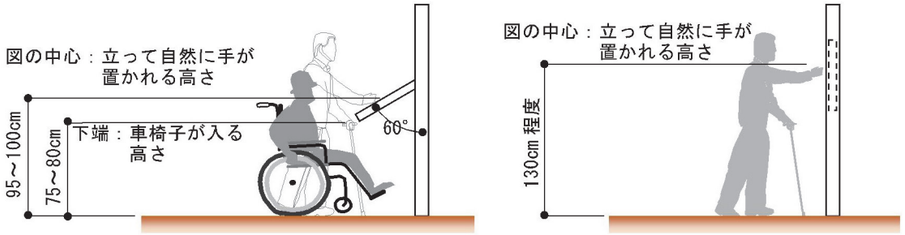


図　障害者も利用しやすいサインの形状



メーカー提供資料

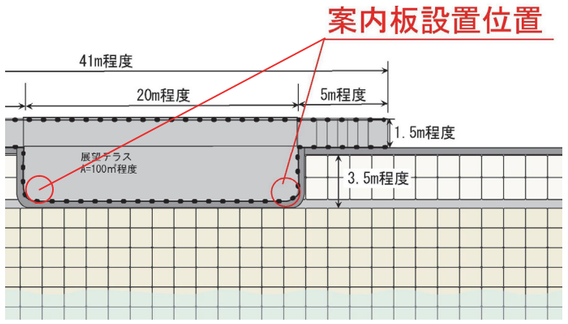


図　案内板設置位置

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路

（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編

【景観設計⑪　ベンチ】

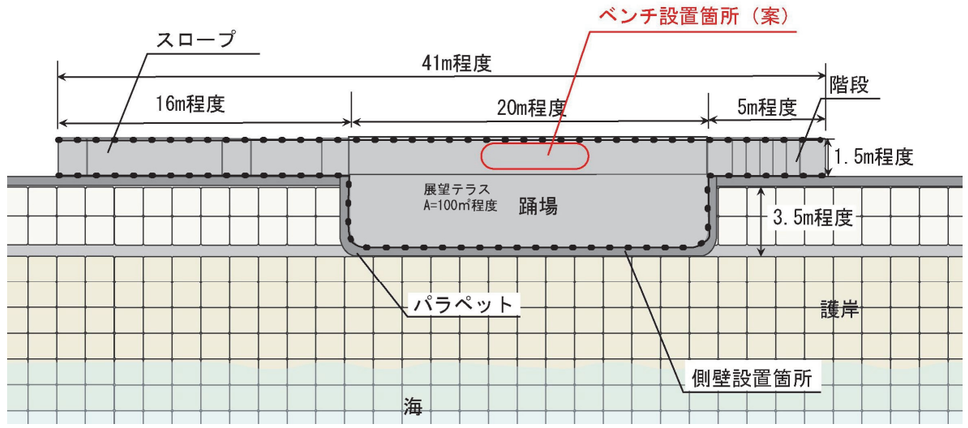


図　ベンチ設置箇所



メーカー資料
（株）増樹 HP
(http://www.masuki-gardenart.com/)

（※1）千葉県福祉のまちづくり条例　別表第四（第二条第四号）　公園等に関する整備基準　（ろ）園路
（※2）江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画　参考資料編

参考２

展望テラス景観設計に係わる計画

■良好な景観の形成に関する方針（区分別方針）(P. 7)

・ 東京湾の水辺景観と調和を図りながら、シンボル性のある工業地の景観をつくる。
・ 構内や外周の緑化、緩衝緑地帯の設置などにより、積極的に緑を創出する。
・ 海上からの眺望景観にも配慮する。

■工業系用途地域における色彩 臨海部の工業地域(P. 11)

○工業系用途地域における色彩（工業専用地域、臨海部の工業地域（東京湾岸道路以南））

建築物及び工作物の外観各面（開口部含む）において、面積の８０％以上について下表①基調色及び下表②補助色の範囲内とし、更に６０％以上は①基調色の範囲内とする。

適用		色相（小数点第2位を四捨五入する）	明度	彩度
外観（勾配屋根を除く）	①基調色	R系　(0.1R～10R) YR系 (0.1YR～10YR) Y系　(0.1Y～5Y)	8．0以上	2．5未満
			6．0以上8．0未満	4．5未満
			3．5以上6．0未満	6．5未満
		その他（上記色相及び無彩色以外）	8．0以上	2．5未満
			6．0以上8．0未満	3．5未満
			3．5以上6．0未満	4．5未満
		N（無彩色）	3．5以上	
	②補助色	R系　(0.1R～10R) YR系 (0.1YR～10YR) Y系　(0.1Y～5Y)	8．0以上	3．5未満
			3．5以上8．0未満	6．5未満
		その他（上記色相及び無彩色以外）	8．0以上	3．5未満
			3．5以上8．0未満	6．5未満
		N（無彩色）	3．5以上	
勾配屋根		R系　(0.1R～10R) YR系 (0.1YR～5YR)	7．0以下	2．5未満
		YR系 (5.1YR～10YR) Y系　(0.1Y～5Y)	8．0以下	3．5未満
		その他（上記色相及び無彩色以外）	7．0以下	1．5未満
		N（無彩色）	8．0以下	

○市街化調整区域における色彩

建築物及び工作物の外観各面（開口部含む）の９０％以上の面積について、下表の範囲内とする。

	色相（小数点第2位を四捨五入する）	明度	彩度
外観（勾配屋根を除く）	R系　(0.1R～10R) YR系 (0.1YR～5YR)	8．0以上	1．5未満
		6．0以上8．0未満	2．5未満
		3．5以上6．0未満	3．5未満
	YR系 (5.1YR～10YR) Y系　(0.1Y～5Y)	8．0以上	1．5未満
		6．0以上8．0未満	3．5未満
		3．5以上6．0未満	4．5未満
	その他（上記色相及び無彩色以外）	8．0以上	1．5未満
		3．5以上8．0未満	2．5未満
	N（無彩色）	3．5以上	
勾配屋根	R系　(0.1R～10R) YR系 (0.1YR～5YR)	6．0以下	2．5未満
	YR系 (5.1YR～10YR) Y系　(0.1Y～5Y)	6．0以下	3．5未満
	その他（上記色相及び無彩色以外）	6．0以下	1．5未満
	N（無彩色）	6．0以下	

【出典】市川市景観計画の概要　平成 23 年 12 月 1 日施行
（http://www.city.ichikawa.lg.jp/common/000118665.pdf）